

増設多核種除去設備 サンプリングシンクから堰内への系統水漏えい 事象について (要因・対策報告)

2017年7月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

概要及び時系列

TEPCO

■ 概要

- 平成29年6月12日、増設多核種除去設備（増設ALPS）建屋内のサンプリングシンクから系統水の漏えい及び漏えい水による水溜り（範囲：6m×6m×1mm）を確認。
- 水溜りは増設多核種除去装置建屋の堰内に留まっており、建屋外への流出はない。
- 平成29年6月11日、委託運転員によるCaイオン濃度測定の際にサンプリング元弁F1721Cを閉め忘れたこと、およびサンプリング弁のシートパスのため滴下が継続しサンプリングシンクから漏えいに至ったものと推定。

■ 時系列

【6月11日】

午前中 委託運転員が増設ALPS（C）Caイオン濃度測定、サンプリング元弁を閉操作を失念（パトロールを10:00～12:00に実施、漏えい確認出来ず）

【6月12日】

10：08 当社監理員が増設ALPS（C）サンプリングシンク周りに水溜りを発見し当直に連絡同時にサンプリング元弁F1721Cの閉操作を実施し、サンプリング弁からの滴下が停止したことを確認

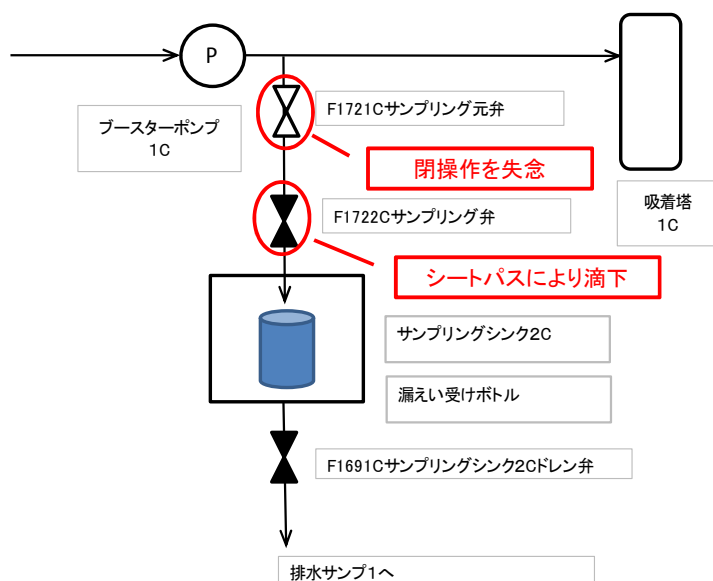
12：50 ウェスによる水溜りの拭き取り完了

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

■ 原因

- サンプル元弁の閉操作を失念，サンプル弁のシートパス※により滴下。（※6月23日当該弁の交換完了）



要因分析

■ 要因分析の結果

- (要因1)
委託運転員が手順書をチェックせずに作業を完了した。
- (要因2)
委託責任者は委託運転員が手順書に基づいて作業を実施したことを確認していなかった。
- (要因3)
サンプル弁の不具合。
→対策（交換）完了

■ 対策

- (対策1) 委託運転員に手順書を確実にチェックするよう教育する。
 - ◆ 不適合発生の重大性について教育
 - ・ 事例検討を実施し手順書遵守の重要性を教育。
 - ◆ 運転員の心得と基本動作訓練の再教育。
 - ・ 手順書遵守の重要性、指差呼称の定着の教育を机上と実技で実施。
(訓練施設で手順書に基づく操作、ラインナップ確認等を実施。)

→平成29年7月以降の教育より適用

- (対策2) 委託運転員が手順書のコピーを現場に持参して作業記録を作成し、操作室で委託責任者の確認を受ける体制へ変更する。
 - ◆ パウチした手順書の運用を廃止、作業記録の作成を基本とする。

→運用変更済み